

第31回リハ工学カンファレンス in こうち

兵庫頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

2016年8月26日（金）から28日（日）の3日間、高知県立ふくし交流プラザで「第31回リハ工学カンファレンス in こうち」が開催され、参加してきたので報告します。

「参加」といっても今回は違った立場からの「参加」。日本リハビリテーション工学協会のカンファレンス担当理事として本カンファレンスに関わっているため、言わば「主催者側」としての参加となりました。高知には高知福祉機器展参加や実行委員会出席と、何度も出向いて関係者を訪問したり、実際にアクセス調査を行うなど、多くの障害者を含む参加者に来てもらうべく準備をしてきました。カンファレンスも30周年を迎えるので、記念式典を企画準備しながらのカンファレンス準備となったため、いつも以上に調整や連絡が多く、初めてカンファレンス担当で関わるといったプレッシャーも加わり、かなりの疲労が蓄積した状態で本番当日を迎えることになりました。それだけに、カンファレンス参加者数：262名、30周年記念式典・交流会：164名、特別公開講座：150名、オプションツアー：11名といった「地方開催」としては良い結果を残せたこと、そして台風の影響もなく、大きなトラブルもなく無事に終了することができたことが何よりも嬉しかったです。

カンファレンスの内容も高知実行委員会のみなさんが『最高のおもてなし』を用意してくださったので、文句のつけようのないくらい充実したものでした。中でも演題発表は当事者の発表者も多く、3セッションを埋めるくらいの演題数でした。福岡で開催したときも当事者発表は多かったですが、高知もそれを越える？くらいの数でした。私も「頸髄損傷者の褥瘡予防に対する意識と福祉用具選択の課題－自らの褥瘡の経験から－」というタイトルで発表し、微力

ながら貢献しました。私自身は、当事者発表が多かったことに感動しましたが、当事者発表が多いセッションの座長を障害当事者が務めたことにも感動しました。「社会参加」「当事者からの発信1」「当事者からの発信2」の3つのセッションの座長を東京・麩澤孝氏、愛媛・鈴木太氏、そして私の頸髄損傷者連絡会会員が務めたわけです。今までなかったことですので、これは本当にすごいことだと思います。

アクセスに関しても大変好評をいただきました。空港・電車最寄駅・宿泊ホテルから会場までの送迎するバスを用意し運行してもらいました。障害ある者・ない者両方に配慮した環境が用意できたと自負しております。

来年は2017年8月22日（火）～24日（木）の日程で、「Powerful Asia」の統一テーマの下、アジアのリハ工学と支援技術の国際会議である、i-CREATE 2017 と同時に、神戸のポートアイランド「神戸国際会議場」にて開催されます。神戸はアクセスもよく、観光地としても最高の街です。カンファレンス実行委員会もすでに組織され、高知開催を越える“熱さ”でもてなす準備を着々と進めています。是非、参加および発表しに来てください。お待ちしております。



交流会にて頸損仲間+K社長と